

主 題：死からのよみがえり

聖書箇所：コリント人への手紙第一 15章12-20節

主イエスの弟子たちのメッセージは、主イエスの復活以降変わりました。彼らが語ったメッセージは「十字架で死なれたイエスこそ、約束の救世主であった。そして、死後三日目のよみがえりがその証拠である。」でした。このメッセージを弟子たちは語り続けていました。実は、そのことがこの1コリント15：12記されています。「ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、…」とあります。この「宣べ伝えられている」は現在形です。ですから、そのように人々はメッセージを語り続けていたとパウロは言っているのです。パウロだけではありません。主イエス・キリストの救いに与った人たちはそのメッセージを語り続けていたのです。

また、この弟子たちは「イエス・キリストがだれだったのか？イエスが何を成したのか？」ということをお話だけでなく、彼らは全人類がよみがえりということをお教えました。全人類のよみがえりとさばきを語ったのです。ですから、当時の人々が語っていたメッセージは「十字架で死なれたイエス・キリスト、彼は死後三日目に肉体をもって復活された。それらを通して、イエスが約束の救世主であったことが明らかにされた。そして、イエスがよみがえって来たことは、ここにいるすべての人々が死んだ後よみがえりすることを明らかにした。だから、主に会う備えを、主のさばきに対する備えを為しなさい。」というものでした。

このようなメッセージを聞いていた多くの聴衆たちは、イエスの十字架もイエスの復活も完全に否定することはできませんでした。なぜなら、それらを実際に見た人たちがいたからです。イエス・キリストの十字架は多くの人たちに目撃されています。ゴルゴダの丘の上でイエス・キリストは磔にされました。多くの通行人がそれを見ていました。そのニュースは多くの人々に知れ渡ったことでしょう。

同時に、イエス・キリストがその死後三日目に墓の中から肉体をもって敢然とよみがえって来たという、このよみがえりという出来事も多くの人たちが目撃しました。十二弟子たちだけが目撃したわけではありません。聖書の教えによれば、500人以上の人々がイエスの復活の目撃者であると記されています。15：6「その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。」。それを見た人たちは「私たちはイエスがよみがえったことを実際に見たのだ」と言って、人々にそのことを伝えたのです。

今から約2000年前、初代教会が誕生したその最初の頃、人々はこのようなメッセージを語っていたと聖書は教えます。それは使徒の働き2：32「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」です。みな、主イエスの十字架と復活を目撃しました。そして、彼らはそのことを伝えたのです。同時に、伝えたことによって人生を変えられた人々は「確かに、イエスによって私の人生は変えられました」と人々の前で語りました。

ペテロとヨハネがユダヤ教の専門家である人たちと話している様子が書かれています。すると、彼らは驚きました。というのは、ペテロにしろヨハネにしろ、彼らは聖書のことばによれば「彼らは無学な者たち（使徒4：13「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、」）だったからです。彼らは漁師でした。魚を獲ることに限ってはプロです。生まれながらにそれをして来たのです。学校に行く必要はなかったのです。ところが、今、彼らは宗教の専門家たちと話しているのです。彼らは「イエス・キリストは十字架で死んだ後、三日後によみがえった」と言いました。そのことを聞いた群衆、特に、この宗教の専門家たちは驚くのです。「彼らは漁師ではないのか？」と。面白いことが書かれています。使徒4：13の続きに「ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」とあります。つまり、このふたりは、また、他の弟子たちもイエスとともに時間を過ごすことによって、彼らの人生が変えられた、生活が変えられていったのです。そのことを人々が見て、その教えだけでなく彼らの生き様が変わっている様子に驚きを覚えたのです。

皆さんにこの初代教会の様子を思い描いていただきたいということでこのように話しているのですが、その当時、人々はイエスの十字架と復活を語り、ある者は「それを目撃した」と言い、ある者は「イエスによって人生が変えられた」と言って語り続けた、そのような様子だったのです。

*「死者の復活を信じなかった人々」がいた

ところが、この弟子たちが「イエスがよみがえったという事実は、我々すべて例外なく死からよみがえり、そして、その後、さばきを受ける」というメッセージをしたのですが、みなはそのことを信じたわけではありません。いくつかの理由がありますが、その一つは、その当時、そのような教えが教

会、いや、社会の中に入り込んでいたからです。ユダヤ社会には、パリサイ人とサドカイ人が存在しました。彼らは宗教の専門家です。この二つのグループの違いは聖書が教えています。サドカイ人たちは裕福な人たちでしたが、彼らは「復活はない」と教えていました。そして、彼らは天使たちも霊も存在しないと教えていました。それと相反する教えをしていたのがパリサイ人たちでした。後に、パリサイ人が主流になっていきます。紀元70年にエルサレムの神殿が滅んだ以降、サドカイ人たちは表舞台には出て来ません。でも、イエスがおられた当時はサドカイ人たちがいて、彼らは「人がよみがえることなどあり得ない」と教えていたのです。その教えを受けた人たちは、弟子たちから「人は死んだ後よみがえる」と聞いてもなかなか信じることができなかつたのです。

そのメッセージをなかなか信じなかつたもう一つの理由は、多くの人たちはそのことを信じたくなかつたということです。パウロがギリシャのアテネの町を訪問したときの様子が書かれていますが、そこでパウロはギリシャの哲学者たちと話をします。彼らは「外国の神のことを話している」と言ってパウロの話に非常に興味深く聞きます。そして、パウロは「イエスと復活とを宣べ伝えた」（使徒17：18）とあります。それを聞いていた人たちは、最初は関心をもちますが、パウロがすべての人のよみがえりのことを話すと、「死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、「このことについては、またいつか聞くことにしよう」と言った。」（17：32）と記されています。

この様子を考えると、今も余り変わらないと思います。多くの人たちは「あなたは死んだ後、必ずよみがえって、あなたを造られた創造主なる神によってあなたの罪のさばきを受けるのです」と聞いても、関心を示しません。なぜなら、彼らの関心は「今をどのように楽しく生きるのか？」ということだからです。人生など短いのだから今を楽しまないでどうする！と、今のことしか考えません。死んでから先のことなどだれも考えようとしません。そんなことを考えると人生は暗くなって面白くなるから考えないようにしようと。この社会はそのような人で溢れています。どの時代でもどの国でも同じような結果を見ます。

今日の箇所、Iコリント15：12の続きには「どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。」とあります。ここにある「言っている」という動詞も現在形です。ですから、弟子たちは一生懸命キリストの十字架と復活を語り続けていきましたが、一方で、「いや、人は死んだ後よみがえることなどない」と言い続けている人たちもいたのです。そのことが12節で記されているのです。パウロはこのようにメッセージを与えるのですが、皆さん、その背景をつかんでいただけましたか？このような状況の中でパウロはこの教えを与えているのです。福音のメッセージは語られていました。でも、多くの人たちは死んでから自分たちもよみがえるということについて、なかなか心を開こうとしなかつたのです。そんなことなどあり得ないと信じていた人たちがいたことを聖書は教えるのです。

ですから、パウロはこの後、私たちは必ず例外なく死んだ後よみがえるということを教えていこうとします。それを教えるに当たってパウロが引き合いに出すのが、主イエスの復活のことです。イエス・キリストの復活という事実が、私たちは例外なく、人類すべてが神の前に立つ日がやって来る、そのことを明らかにしているとパウロは教えるのです。そのことが今日私たちが見るテキストです。

12：13をご覧ください。「もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかつたでしょう。」とパウロは言います。つまり、キリストの復活が明らかにしたこと、それは「死者がよみがえる」ということ、人は死んで終わりではなく、すべての人は例外なく、必ず、死からよみがえるときがやって来るということです。そのことをパウロは教えようとしているのです。しかも、そのことを逆説的に言って、その真理を教えようとしていることは、この後みことばを見ていくなら益々明らかになります。パウロは「もし、死者の復活がないのなら、…」、私たちクリスチャンはこの世で最も哀れな者だと言います。なぜなら、嘘を信じ、嘘のためにいのちを懸けて来たからです。そうして、パウロは「でも、イエス・キリストは確かによみがえられた。だから、我々は決して哀れな者ではない。」と教え、主イエスの復活の事実を証明するのです。

★ もし、主イエスの復活が事実でないなら…

A. 取り返しのつかない三つの罪 14-15節

もし、イエスの復活が事実でないなら、私たちは大変大きな罪を犯したことになる、パウロはそのことを14、15節で教えています。「:14 そして、キリストが復活されなかつたのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。:15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。」もし、本当にイエスが死からよみがえっていないなら、私たちは三つの罪を犯すことになる、それがここに記されています。

1. 人に対する罪 : 偽りのメッセージを伝える — 愚かなことである 14節

14節に「そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、」と、ここで止めます。一つ目の罪は、人に対する罪です。なぜなら、私たちは人々に偽りのメッセージを語ったからです。私たちの語ったことが真実でないなら、私たちは大変大きな罪を犯したことになります。「実質のないもの」ということばが繰り返されていますが、これはどちらも「実を結ばない、虚しい、役に立たない、無駄な」という意味をもったことばです。宣教は実を結ばない、虚しいものだ、宣教は役に立たない無駄なものだったと言うのです。そして、「宣教」という名詞は、「メッセージを語る、何かを人々に告げ知らせる」という意味を持ったことばですが、辞書を見ると、特に、ここで使われているのは、メッセージを語ったというよりも、そのメッセージの内容に焦点を当てています。

パウロが言いたいことは、「もし、イエスがよみがえっていないとするなら、あなたが語ったメッセージの内容は全く虚しい無益なものである」ということです。では、パウロたちはどのようなメッセージを語ったのでしょうか？ Iコリント15:3, 4にその一部が記されています。1-2節に「福音」ということばが書かれています。3-4節「:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。」と、パウロが語ったことはパウロ自身が受けたこと、つまり、信じたことだと言っています。「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、」と、このメッセージをパウロは語り続けたのです。イエス・キリストは私の身代わりとなって十字架で死んでくださり、イエス・キリストは三日後によみがえってくださったと。

でも、このメッセージだけをずっと語っていたのではありません。聖書の他の箇所を見ると、パウロが語っていたメッセージはこれだけではないことが明らかです。もちろん、イエス・キリストが何のために十字架に架かり、そして、その復活は何を意味するのかというメッセージは語っていました。でも、それについていろいろなことをパウロ自身が語っています。たとえば、先に見たアテネの町でのことを思い出してください。人は死んだ後よみがえるということを話したとき、人々は嘲ってその場を立ち去ったと書かれていましたが、そのときパウロは17:30「神は、そのような無知の時代を見ごころおられました。今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。」と言いました。つまり、パウロが言ったのはこういうことです。ギリシャは日本と同じように、神と名の付くものが無数にありました。そこでパウロは言います。本当の神は人間が手で造ることができる存在ではないと。人間が造れるものは人間以下のものだからです。人間は人間よりはるかに崇高な神を造り出すことなどできません。神が人間を造られたのです。ですから、パウロはそのように神と名の付くものをたくさん造ってそれを崇拜しているアテネの人々に対して、あなたがたは大きな間違いをしている、私たち人間は神を造り出すことなどできません、神と呼ぶにふさわしい唯一のお方は、自然界のすべてを造り、あなたを造ったお方だと言います。だから、今、あなたのその罪を神の前に悔い改めて、神に救いを求めなさいと言うのです。あなたがたのこれまでのその無知な行為に対して、神は忍耐をもって耐えておられたけれど、さばきが来るから、罪を悔い改めてこの救いを受け入れなさいと、そのメッセージを語ったのです。使徒の働き20:24にはこのように書かれています。「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」と。パウロはこのメッセージをいのちがけで語ったのです。

また、パウロは「ユダヤ人にもギリシャ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」(使徒20:21)と語っています。ですから、パウロは行くところどこにおいても、イエスがなぜ十字架で死んだのか、そして、イエスが約束通り三日後によみがえって来られたことは何を意味するのかを語りました。そして、人々に、神に逆らう罪の生き方を止めて、この神を信じてこの救いをいただきなさいと勧めたのです。パウロが言うことは、その宣教のメッセージ、福音宣教のメッセージが全く虚しくなる、もし、イエス・キリストが死んで今も墓の中にいるのなら、私たちが語っている福音のメッセージが全く意味のないものになるということです。

そのように先ずパウロは教えるのです。真実でないメッセージを人々に伝えることは大変大きな罪であると。イエス・キリストはまだ墓の中にいるのに彼がよみがえったと言っている。墓の中にいるということは、彼は救い主でも神でもなかったのに、その方を神だ、救い主だと言って偽りのメッセージを伝えた、大変大きな罪を犯したことになる。もし、イエス・キリストが死からよみがえっていないのであれば…と。

2. 自分に対する罪

同じ14節に「あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。」とあります。メッセージだけでなく、信仰自体も実質のないもの、実を結ばない、虚しい、役に立たない無駄なものだと、そのようにパウロは言います。つまり、パウロは「もし、イエス・キリストがまだ墓の中においてよみがえっていないなら、

あなたはイエス・キリストによって罪が赦されて天国に行けると信じているけれど、その信仰自体が全く無益なものだ。あなたに救いはないのだ。あなたはそのように信じて来たけれど、それは真実ではない。」と言うのです。でたらめを信じているなんて何と虚しいことかと。イエス・キリストが死からよみがえって来ることによって、イエスがだれであるかが明らかにされました。よみがえって来ることによって、イエスは神であり、真の唯一の救い主であること明らかにされた。しかし、彼がまだ墓の中にいるなら、彼は最大の嘘つきです。そのような人を信じて、その人が約束された永遠のいのちを得ることなどありません。だから、パウロは「イエスがまだ墓の中にいるなら、よみがえっていないのなら、あなたの信仰自体が虚しい。あなたはまだ救われてもいません。」と言います。

パウロは多くの人たちにこのイエス・キリストの福音を語りました。多くの人々はそのメッセージを聞いてイエスを信じ喜んでいた様子が聖書の中には記されています。ある出来事を思い出します。パウロたちが初めてヨーロッパに入って行きました。ピリピの町を訪問しました。そこで福音を語ると彼らは捕えられて投獄されました。その獄中でパウロたちが神を賛美していると看守が聞き入っていました。大きな地震が起こって獄屋の扉が全部開いてしまったので、看守は囚人たちがみな逃げてしまったと思って自害しようと思いました。使徒の働き 16 : 28 に「そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」と叫んだ。」とあります。すると看守はパウロとシラスのところに来て「先生がた。救われるためには何をしなければなりませんか。」(30節)と言います。パウロはこのように答えました。31節「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。」と。その後、この看守は「ふたりを家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。」(34節)と書かれています。

もし主イエス・キリストが死からよみがえって来なければこれはただの思い込みだ。彼らは罪が赦されて喜んでいた。彼らは天国行きの切符を得たと思っていた。でも、それはそう思い込んでいただけに過ぎない！と言うのです。これは悲劇です！

3. 神に対する罪 : 神に逆らう証言 15節

もう一つの罪は「神に対する罪」です。15節に書かれています。「それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。」。神がなさっておられないことを神がしたと言って私たちは嘘をつくことになると言うのです。パウロは「もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかった」と言います。しかし、「私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をした」、これは神に対する大きな罪である、神がしていないことを神がしたと言うからです。

こうしてパウロは、「もしイエス・キリストの復活が事実でないなら、イエスがよみがえったと語っている私たちは大変大きな罪を犯していることになる。」とここで話し、そして、その上で、イエスの復活が事実であったことを人々に悟らせようとするのです。もし、主イエスの復活が事実でないのなら、我々は最も哀れな存在であると言います。

B. 最も哀れな人生 16-19節

1. 罪の赦しがない 16, 17節

16節「もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。」、13節には「死者の復活がないのなら」と「復活」ということばが使われていました。この16節では「よみがえり」です。これらは同じことばが繰り返されています。17節も同じです。「そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。」とあります。なぜパウロは繰り返したのでしょうか？強調するためです。もし、イエス・キリストが死からよみがえって来なかったとするならあなたには罪の赦しがありませんと言います。16-17節を見ると「信仰はむなしく」とあります。ここで使われていることば「むなしく」は、先ほど見た「虚しい」とは違って「無意味である、空虚、無益である」ということです。

つまり、パウロは、もしイエス・キリストが死からよみがえって来られなかったら、あなた自身は救いを頂いているどころか、今も罪の中を歩んでいることになると言うのです。私は罪が赦されたと思うことは自由だけど、残念ながら、あなたには罪の赦しを与えられていませんと。なぜなら、あなたの信仰はむなしなものだ、無益なもの、無意味なものだからと言うのです。もし、イエス・キリストが死んだ後まだ墓にいるのなら、あなたには救いはありません。あなたは自分の罪の代価を自分で支払わなければいけない。あなたに待っているのは永遠のさばきだと言うのです。

2. 永遠の地獄へ 18節

そのことが18節に記されています。「そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。」と。聖書には「眠った者たち」という表現がよく使われています。肉体的に死んだ人のことを「眠

った」と言います。ラザロに対してもそのように言われました。「彼は眠っているのです。」と。なぜなら、眠っている人は目覚めるときがあるからです。私たち日本人は「永眠されました」と言いますが、残念ながら、それは聖書の教えていることではありません。「眠る」ということばは確かに死に関して使われるのですが、それは「起きる時がやって来る」という意味で使われるのです。ですから、18節でパウロは「キリストにあって眠った者たち」と、つまり、イエス・キリストを信じて、後に肉体的な死を経験した人たちのことです。「あなたがたは『彼らは必ずよみがえって神とともに永遠を過ごす』と信じているけれども、残念ながら、彼らは今地獄にいるのです」ということです。

「滅んでしまった。」ということばは聖書の中に幾つか使われているのですが、その中の一つはマタイの福音書10:28にこのように書かれています。「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」と。この「ゲヘナ」とは地獄のことです。そこで永遠の苦しみに遭うという意味でここで「滅ぼす」ということばが使われているのです。あなたがたは、イエスを信じた人たちは神のご加護の内において、よみがえる日を待っていて、さばきとは無縁のものだと思っているけれど、残念なことに、彼らは滅びの中にあるのだ、もし、イエス・キリストが死からよみがえって来なかったとするならば…と言うのです。私たちの信仰自体が崩れ去ってしまうと、それ程、イエス・キリストの復活は大切なのです。

そして、19節には「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。」とあります。一番哀れな者、一番みじめな者だと言っているのです。なぜなら、クリスチャンというのはこの地上にあってただ希望を持って生きて来ただけの人たちだからです。「死んだ後よみがえって天国に行けると、そのような希望を持っていたけれど、実は、現実はそのとは違う。それはみじめでしょう！」と言うのです。

私たちはみな、死んでも生きるという信仰を持って生きています。私たちはそこで先に天国に上がった愛する者たちに再会できると信じています。そこで愛する主イエス・キリストに再会できると信じています。そして、その信仰のゆえに私たちは様々な迫害にも耐えて来ました。様々な孤独も経験して来ました。様々な痛みや悲しみにも耐えて来ました。なぜなら、すべてその先を見たからです。この地上の痛みや問題は一時的なものであって、その後には神のすばらしい祝福があると。ですから、多くの人たちは痛みの中にあっても将来を見ながら耐えていった。ところが、それはすべて偽りだった。もし、その通りなら、ただ単に希望を置いていただけのクリスチャンなら、これほどみじめなことはない。悲劇だと言います。もし、イエス・キリストの復活がなかったのなら…と。

◎「しかし、」と20節を見てください

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」「イエス・キリストはよみがえった」とパウロは高らかに宣言します。「初穂」ということばが使われています。これは、イエス・キリストの後に続いて多くの者が実を实らせるからです。イエス・キリストが死からよみがえって来たという事実は、イエスを信じる者たちが彼とともに、彼の後に続いてよみがえって来る、そのことがあるということをはっきりと示しているのです。ですから、パウロは「主イエス・キリストが死からよみがえって来たという事実は、あなたが信じているように、あなたは死んでも必ずよみがえる。」と言います。あなたはその肉体から離れて、そして、栄光のからだを頂いて神とともに永遠を過ごすという、あなたが信じているその祝福をあなた自身が得ることになる、あなたはこの主とともに永遠を過ごすことになる、と言うのです。パウロは続けて言います。

◎イエス・キリストがよみがえってきたという事実は、

・あなたの福音宣教の働きは間違っていなかった

あなたが語ってきた福音は真実だ。イエスは確かに十字架で死に、イエスは確かに死からよみがえって来た。そのことによって彼が真の神であり救い主であることを明らかにした。だから、あなたがこのイエスによって救われると語って来たメッセージは間違っていない。福音の働きは決して無駄ではなかったと、そのように高らかに宣言するのです。

・あなたの信じた信仰は間違っていなかった

あなたはイエス・キリストをあなたの神、救い主と信じ、この方にあなたの永遠を掛けました。この方があなたのすべての罪を赦してくださいと信じてこの方を信じた。パウロは言うのです。「あなたは罪赦されています。あなたは永遠のいのちを頂いています。なぜなら、イエスが敢然とその死からよみがえって来たから。」と。あなたの信じた信仰は間違っていない。あなたは真理を信じたのだからと。

・あなたの語った「主イエスの復活のメッセージ」は、神の前に真実だった

神が為さったことを、あなたはそのとおりに忠実に語った。神に逆らう証言をしたのではない。神が為さったみわざを正しく伝えたのだと。

・あなたの語った福音は信じるすべての人に「永遠のいのち」を与える

永遠の地獄からの救い、永遠の滅びからの救い、そして、永遠のいのちを確かに与えると言います。なぜそう言い切れるのか？イエスを信じたなら本当に罪が赦されて確実に天国に行けるとなぜ言い切れるのか？それは「主イエス・キリストの復活」です。イエスはその死から敢然とよみがえって来た。この事実が私たちに確信を与えてくれるのです。

今、エルサレムの町に行ってみると、イエスが納められたという場所があります。そこにもし、大きなフェンスが張られていて「これより近づいてはなりません。主イエス・キリストのお骨はこの中に納められています。」と書かれているなら、今見て来たように、私たちの信仰そのもの自体が全く無意味なものになります。イエスはただ立派な人だったのです。ほかの宗教家と同じように…。

でも今、エルサレムの墓に行くと、「彼はここにはいません。よみがえられました。」と書かれています。その墓の中に入っていくことができます。イエスが納められていたその場所を見ることができます。そこには何もありません。骨のかけらも残っていません。なぜなら、イエスは肉体をもってよみがえったからです。そして、その復活によってご自身が神であり、救い主であることを明らかにしてくださった。イエスを信じる者を、神は約束通り、完全に永遠に救ってくださるのです。

サタンやサタンに従う者たちはみな協力して何とかしてイエスを墓の中に留め続けようとしてきました。墓の前に2トンもの大きな岩が立て掛けられていました。イエスのからだは包帯でグルグル巻きにされていました。身動きが取れないように。また、その墓の入り口には、ローマの刻印が押されて、これを破った者はローマに逆らう者だとして、人間はありとあらゆる方法でイエスを墓の中に留めておこうと努力しました。しかし、三日後にイエス・キリストは肉体をもって敢然とその墓からよみがえって来た。墓の中には包帯が巻かれたままの状態に残っていました。だれかがほどいたのではありません。中身だけが抜けているのです。だれがこの大きな石を動かすことができるかと弟子たちは相談していました。キリストがよみがえられた時に、それは完全に横倒しになり、イエスはそこから肉体をもって出て来られたのです。人間がどのように努力しようと、サタンがどれほど努力しようと、生きておられる神を墓の中に留め続けることは出来ません。

なぜ、イエス・キリストはイエスを信じる私たちに永遠のいのちを与えることができるのか？それはイエスがいのちの源だからです。イエスがもし死んでそのまま墓にいるのなら、そのことによって彼はあることを明らかにしたのです。それは彼には永遠のいのちがないということです、彼はいのちの源ではないということです。それはこの死という人間がどうすることもできない力に完全に屈服したのです。しかし、イエス・キリストがその死から敢然と肉体をもってよみがえって来ることによって、彼は死に勝る力を持っておられること、いのちの源である真の神であることを明らかにされたのです。この事実が信じるあなたや私に完全な救いを与えてくれるのです。

なぜなら、彼は神が約束されていた約束の救世主だからです、あなたを罪から救ってくださり、永遠のいのちを与えるために来てくださった救い主だからです。もうすでにイエスを信じている皆さん、あなたはそのことを心から感謝していますか？私たちが特にこの日を記念しているのは、イエス・キリストが死からよみがえって来られたことを覚えるからです。私たちはこの年1回のイースターのときだけではありません。毎週日曜日、よみがえりの主を覚えてその方を崇めます。イエス・キリストのよみがえりはあなたに救いが与えられていること、そして、あなたが肉体的に滅んだとしても、死を経験したとしても、あなたは確実によみがえって天国で主とともに過ごせるというすばらしい約束が与えられていることを明らかにします。この約束はあなたのものです。イエスの復活がそれを明らかにしたのです。

また、この中でまだイエス・キリストの救いを信じておられない方、聖書は約束します。あなたも必ずよみがえると。でも、それは今のままであるなら祝福へのよみがえりではありません。なぜなら、あなたは今神に逆らい続けているからです。パウロたちが語ったように、その罪を悔い改めて救いをいただくことです。神はあなたに救いを与えてくださいます。今、あなたがその罪を悔い改めて主の前に救いを求めて出て来るなら…。

みことばはこのように言います。使徒24：15「また、義人も悪人も必ず復活するという、この人たちが自身も抱いている望みを、神にあって抱いております。」、ヨハネ5：29「善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」。みなよみがえるのです。でも、ある者たちはよみがえって祝福を頂きますが、ある者たちはよみがえってさばきを受けます。

今、あなたはどちらに向かっているのでしょうか？もし、あなたのために十字架で死んでよみがえってくださったイエスを信じていないなら、神はそのチャンスを、救いの日をあなたに今日くださいました。どうぞ、このすばらしい救いを頂いてください。主に逆らい続ける生き方を今日止めることです。どうぞ、あの十字架を見上げてください。あなたのためにイエスは死んでくださったのです。そして、彼は約束通りよみがえって来て、あなたにすばらしい救いを備えてくださったのです。今日、その救いを求めて出て来てくださること、そのことを心からお勧めします。

《考えましょう》

1. 弟子たちは、どのようなメッセージを語りましたか？
2. どうして主イエスの復活が大切なのでしょうか？
3. 主イエスを信じる者たちは「哀れな者でない」のはどうしてでしょう？
その理由を記してください。
4. 日々をどのように過ごす人が「よみがえり」の備えをしている人だと思いますか？
その特徴を記してください。